

NPO 法人マリンネットワーク

2020 年度 総会資料

日時 2020 年 5 月 23 日（土）14:00～14:30

会場 NPO 法人マリンネットワーク

NPO法人 マリンネットワーク

2020 年度総会 次第

日時 2020 年 5 月 23 日（土）14:00～14:30

場所 NPO 法人マリンネットワーク

- 1 開 会
- 2 総会定足数報告
- 3 議長選出
- 4 総会
 - 1) 総会開会宣言
 - 2) 議事録署名者選任
 - 3) 議案審議
 - 第 1 号議案 2019 年度事業報告について
 - 第 2 号議案 2019 年度収支決算報告並びに監査報告について
 - 第 3 号議案 2020 年度事業計画(案)について
 - 第 4 号議案 2020 年度収支予算(案)について
 - 第 5 号議案 役員の選任(案)について
 - 4) 総会閉会宣言
- 5 閉 会

第 1 号議案

2019 年度 事業報告

■NPO 法人マリンネットワーク 2019 年度 総会・講演会・交流会

1. NPO 法人マリンネットワーク総会

日時：2019年5月25日 14:00～14:30

開催場所：TKPガーデンシティ札幌駅前

出席者数 31名

正会員数総数 101名（個人 75、法人 26）のうち、出席者 65名（うち委任状出席者 38）で、正会員数の 1/2 以上の出席をいただいたので、総会が成立しました。

片石理事長が議長に選出され、4つの議案について審議をしたところ、原案通り異議なく可決されました。



議長（片石理事長）



参加者 31名



高須賀監事

2. 講演会

日時：2019年5月25日 15:00～17:15

開催場所：TKPガーデンシティ札幌駅前

出席者数 41名

■講演 15:00～16:00

地域における取組の紹介

講演 1. 糸島地域 浜の活力再生プランの取組～糸島地域全体の活性化を目指して～

平成 30 年度 浜の活力再生プラン優良事例表彰 農林水産大臣賞

糸島漁業協同組合（福岡） 参事 吉村寿敏 様

講演 2. 歯舞地区マリンビジョン協議会の取組について～知名度向上のための歯舞水産物のブランド化推進（トレーサビリティの構築）～

平成 30 年度 北海道マリンビジョン 21 コンテスト 最優良賞

歯舞漁業協同組合 参事 中村直樹 様

（根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会）

講演3. 浜の活力再生プランの取組み

平成30年度 浜の活力再生プラン優良事例表彰 水産庁長官賞

苫小牧漁業協同組合 総務部部長代理兼課長 赤澤一貴 様



糸島漁業協同組合吉村参事



歯舞漁業協同組合中村参事



苫小牧漁業協同組合赤澤総務部部長代理兼課長

○糸島漁業協同組合吉村参事の主な講演内容

浜の活力再生プランの活動のうち、①ハマグリ資源管理と価格向上（漁業者自らの厳しい資源管理、関西出荷、県内PR、直販などによる単価向上）②サワラの高鮮度出荷による単価向上と消費拡大（高鮮度処理したサワラを岡山へ出荷し単価向上、地元の消費拡大）③直接販売による価格向上の取組み（農協直売所と連携した水産物直売により、単価向上、経費削減、所得増加、作業の軽減などの効果が得られた）④カキの直接販売と資源の再利用（カキ養殖とカキ小屋の実施、異業種連携によるカキ殻の再利用）の4つの取組みと成果についてお話いただきました。

○歯舞漁業協同組合中村参事の主な講演内容

北海道内で最も単価の安かった根室・歯舞の活タコのブランド化に向けた取り組みと効果、2段階トレーサビリティ（漁業者⇒加工業者⇒消費者）の構築、消費者に対するアンケート調査、歯舞漁港の将来像についてお話いただきました。歯舞漁協の市場に活魚水槽を導入して、漁業者が選別した選りすぐりの活タコを「金たこ」とネーミングし商標登録するとともに、活きの良さが市場で評価され、浜値が向上した。根室から約600km離れた加工場と、関西圏の居酒屋の協力により日本初の2段階トレーサビリティに取組み、消費地での市場調査も実施した。

○苫小牧漁協苫小牧漁業協同組合 総務部部長代理兼課長 赤澤一貴部長代理の主な講演内容

ホッキ貝の資源管理と販売PRによる知名度向上で、漁獲量、単価ともに向上した。広域連携によるマツカワカレイのPR、苫小牧漁協独自に行った商圏の拡大と研究機関との連携による長時間輸送技術開発などにより、漁獲量、単価ともに向上した。これら取組の結果により漁業所得の向上につながった。

■トークセッション 16:00~17:00

「これからの漁業と地域のビジョン・目指す姿について」

コーディネーター：遠藤仁彦氏（NPO法人マリンネットワーク理事）

パネリスト：吉村寿敏様、中村直樹様、赤澤一貴様



コーディネーターの遠藤理事



パネリスト（左から）赤澤氏・吉村氏・中村氏



佐伯浩顧問



森利男 前苫前町長



遠藤理事の進行により、パネリスト同士のクロストーク、フロアからのコメントや質問など活発なトークセッションとなりました。

主な内容は以下のとおりです。

○吉村氏「輸出についてどのような考え方をお持ちか（他の2漁協に対して）。糸島は地元に来ていただくことをまずは考えている」

ー中村氏：国内での消費を根付かせたいと考えている。

ー赤澤氏：海外は販路の1つととらえ、苫小牧の立地など地域特性を活かしながら取り組んでいきたい。

○中村氏「立地条件の良い両地域における都市漁村交流の方法について教えてほしい」

ー吉村氏：博多に寄港したクルーズ客が来ているし、福岡のベッドタウンとして若者の居住も増え、お

しゃれた店や工房が多くなって賑わいが出てきた。カキ小屋も持ち込み可にして来易いように工夫している。

ー赤澤氏：都市型だが、工業地帯の印象が強く、市民の水産に対する認知は低いと思う。近隣の白老町にアイヌ文化発信の拠点として「民族共生象徴空間」が来年オープンするし、苫小牧中央インターの整備予定、I Rの誘致もしていることから、苫小牧では今後は観光も重要になると考えている。

○赤澤氏「両地域の取組みにおける苦労や課題など教えていただきたい」

ー吉村氏：苦労の連続。カキ小屋は仮設の建物なので、毎年設置と撤収が大変だった。市街化調整区域の解除を進めていただき、やっと常設構造物として整備が始まった。

ー中村氏：苦情の連続。活タコはいつも道内最低価格で入札後はいつも漁業者から叱られた。課題は次に何をするか。

○コーディネーター「函館のホタテの貝殻処理はどうしているのか」

ー高谷理事（南かやべ漁協）：チョーク材料や、コンブ残渣と混ぜて肥料にする。最近、ホタテの斃死が多くなっており、今後大変な問題になると思う。

以下、フロアからのコメントや質問など

○「根室の美味しい冷凍タコ足は、煮ダコが主流の西日本へも加工・販売方法を工夫することで販路を広げられるのではないかとおもうが、また、糸島のハマグリ漁獲から販売までの過程を教えてください」

ー吉村氏：砂出しに3日かかる

ー中村氏：関西はたこを生で食べる習慣がないらしいが、大阪で市場調査をして刺身を食べてもらったところ美味しいと驚いていた。

○「儲けるために長続きしてもらう必要があり、地元への効果が得られるように工夫しなければならない」

○「消費者の立場から見ると、価格は安い方が消費拡大につながるのではないかとおもうが、岡山に高鮮度処理したサワラを出荷するという発想について聞かせてほしい」

ー吉村氏：岡山がサワラの価格がいいということは元々知っていた。福岡では2級品の認識で需要はそれほど無かったが、地元で消費拡大したいと思い様々なイベントやPRを行っている。糸島のサワラのうち高鮮度処理したものは5割。

○「地元で食べていただくことが重要だと思いながら話を聞いていた。漁業者の顔が見える販売方法が上手くいった背景を教えてください」

ー吉村氏：もともと朝市、夕市で対面販売を行っており、漁業者に抵抗はなく、徐々に進めていった。

○「糸島のICTの活用について聞かせてください」

ー吉村氏：直売場での販売状況を逐次漁業者に配信し、その状況を見て漁業者は追加で加工したり出荷している。そのようなシステム作りも難しいものではなかった。

○「各地域にお聞きしたい。糸島で漁協の直売場をたてたときの場所の選定などのポイントを教えてください。歯舞の金たこを消費者が信頼できるポイントは何か？ 苫小牧高専との技術開発でマッチングのポイントは？」

ー吉村氏：イオンモールに出店の話があり、モール内ではなく同じ敷地内に建てることにした。

ー中村氏：市場調査した居酒屋でリーフレットを配り、トレーサビリティのQRコードに動画を関連付けた。

ー赤澤氏：漁協は腰が重いので強いリーダーシップを持って動くことと、いろんな人とかかわりを持つことが連携につながったと思う。

■NPO法人マリンネットワークの活動報告 17:00～17:15

片石温美（NPO法人マリンネットワーク理事長）

総合司会

折谷久美子氏（NPO法人マリンネットワーク理事，NPO法人スプリングボード・ユニティ 21 理事長）



司会：折谷理事



会場の様子



会場の様子

3. 交流会：16:00～17:30

会員、一般の方々あわせ、約 30 名の出席を頂きました。

■ 漁村地域とそれ以外との交流促進事業

第16回 マリンナレッジサークル(漁村勉強会) in 苫前

2019年9月7日(土)とままえ温泉ふわっと「ふわっとホール」にて、第16回マリンナレッジサークル(漁村勉強会)を開催しました。地元や札幌などから36名の方にご参加をいただきました。以下に、勉強会の概要を報告します。

現地視察

森前苫前町長のご案内により、苫前町における再生可能エネルギー施設として風力発電施設(上平グリーンヒルウィンドファーム)と北るもい漁協苫前支所卸売市場・衛生管理型低温荷捌施設の雪冷房施設(苫前漁港)の視察をさせていただきました。

上平グリーンヒルウィンドファームには39基(株ユーラスエナジー苫前20基、株ジェイウィンド19基)、総発電出力は50,600KWの規模。この地域には1970年に閉山した羽幌炭鉱用に架設した66,000ボルトの送電線があったことから、これを利用して北海道電力の送電線へ連系しています。



上平グリーンヒルウィンドファーム



上平グリーンヒルウィンドファーム



上平グリーンヒルウィンドファーム

勉強会

講演1. 我が国における洋上風力発電の現状と将来展望 16:00~16:30

講師: 国土交通省北海道開発局港湾空港部港湾計画課長 箕作幸治 氏

主に以下の内容について講演いただきました。

- ・ 日本における再生可能エネルギー導入の現状と、導入拡大に向けた国の政策および関連する法律の施行状況について
- ・ 環境面、経済性などの面から見た洋上風力発電導入のメリットを、欧州における技術開発や導入状況等から示すとともに、導入による関連産業への効果(海外の事例)や地元産業への好影響について
- ・ 港湾における洋上風力発電導入計画、一般海域への導入にあたっての課題や促進区域の指定、有望区域、基地港湾の事例などについて
- ・ 北海道周辺海域での洋上風力発電導入適地と具体化の動きについて

講演2. 漁港・漁場・漁村の活性化について 16:30~17:00

講師: 国土交通省北海道開発局農業水産部水産課長 横山純 氏

主に以下の内容について講演いただきました。

- ・ 漁港漁場整備については、漁港漁場整備長期計画（平成 29～令和 3 年度）の実施と成果の目標、具体的な取り組み事例として全国の 9 事例のご紹介
- ・ 漁村活性化に向けた基本的考え方については、漁業（生産）が生業としてしっかり儲かること、消費者との関係を築き地域資源と漁港ストックを活用して賑わいの場となることであり、国の施策として推進している「浜の活力再生プラン」（浜プラン）と第 2 期浜プラン、「渚伯」の事業イメージと具体的な取り組み事例についてご紹介



片石理事長挨拶



箕作講師



横山講師

意見交換 17:00～17:30 コーディネーター:遠藤理事

遠藤理事のコーディネートにより、会場の出席者と講師との意見交換を行いました。

主な意見は以下の通りです。

- ・ 日本で風力発電の導入が遅れた要因の一つは、再生可能エネルギーが不安定なエネルギーといわれ技術開発の動きが停滞した時期（30～40年前）があった。
- ・ 留萌管内で洋上風力発電を普及させるには、送電網整備の課題があると聞いた。しかし地域にとって経済効果も期待できる事業なので、可能性を探っていきたい。
→電力会社の送電網につながる事が条件。既存の港湾を基地港にすることを考えると、石狩湾新港は現実的。
- ・ 洋上風力発電は、陸上風力と比較して景観等の問題をクリアし、漁場にもなる。監視カメラが設置できるというメリットもある
→地元漁協の理解、水域専用許可は最長 30 年だが基礎をどうするか、という課題がある
- ・ メンテナンスを漁業者に委託するとか、鋼製の魚礁の可能性はあるか？港湾局では来年度概算要求の中に港の地盤強化の予算を要求している
- ・ 浜プランに関して、現在も魚市場の冷房に雪を使用しているが、雪の利用をもっと考えられないか。またエビ資源の減少が著しいので、資源を増加する方法はないか
→今できることは、漁獲物の価値を高めることかと思う
 雪を固めれば熱利用の面で有利
- ・ 漁港や地方港湾の有効利用について
→漁港泊地で藻の増殖をすとか、漁港で回転寿司を開店した例がある。何ができるか一緒に考えたい
→原木輸出している例がある。商社の方針で近くにある港湾が利用されない場合がある。みなとオアシスとして活用する方法も考えられる



会場の様子



遠藤理事



箕作講師と横山講師



懇親会 18:00～

引き続き、懇親会を開催し33名の参加をいただきました。



■ 情報収集及び調査研究

マリンビジョン期成会総会報告書 契約金額：180,000円(税込)

■ その他

北海道苫前町 前町長 森利男様 退職送別会への協力(2019年6月24日(東京))

第2号議案

2019年度 NPO 法人に関わる収支決算書

会計期間：2019年4月1日～2020年3月31日

NPO 法人マリンネットワーク

単位：円

科目	科目	H31 予算	R1 決算	備考
1. 収入の部		1,140,010	1,065,507	
1. 会費収入		810,000	767,000	
	個人会員	300,000	267,000	正71人、賛22人(R1.3.31現在)
	法人会員	510,000	500,000	正46口、賛4口(R1.3.31現在)
2. 事業収入		310,000	298,500	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	10,000	0	ナレッジサークル参加費
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	10,000	0	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	10,000	0	
	情報収集及び調査研究	180,000	180,000	
	その他	100,000	118,500	総会・交流会会費
3. 預貯金利子		10	7	
4. 寄付金等収		10,000	0	
5. 補助金等収		10,000	0	
6. 雑収入		0	0	
2. 支出の部		998,000	1,044,442	
1. 事業費		680,000	855,009	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	60,000	232,135	マリナレナレッジサークル(苫前町)
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	60,000	0	
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	60,000	0	
	④情報収集及び調査研究	200,000	99,464	MV期成会報告書
	⑤その他	300,000	523,410	総会、苫前町長退職送別会後援
2. 一般管理費		318,000	189,433	
	給料手当	0	0	
	消耗品	20,000	51,492	
	通信費	20,000	20,149	
	外注費	100,000	0	
	新聞図書費	65,000	68,688	
	会議費	10,000	0	
	旅費交通費	100,000	46,820	
	租税公課	0	1,200	
	支払手数料	3,000	1,084	
	その他	0	0	
当期収支差額		142,010	21,065	
前期繰越金		1,304,659	1,304,659	
当期資産合計		1,446,669	1,325,724	

監査報告

監査報告書

2020年5月16日

NPO 法人マリンネットワーク
理事長 片石 温美 殿

NPO 法人マリンネットワーク
監事 吉水 守
高須賀 茂之

私たち監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度における会計の監査を行いました。

諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを証明します。

第3号議案

2020年度事業計画（案）

■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(1) 2020年度NPO法人マリンネットワーク総会

日時：2020年5月23日（土）

総会：14：00～14：30

会場：NPO法人マリンネットワーク（札幌市豊平区月寒東3条15丁目6-21）

(2) マリンナレッジサークル（漁村勉強会） 札幌で開催

■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

・消費者と生産者の交流など、地域と協働で実施

テーマ案として、北海道マリンビジョン21、渚伯、浜の活力再生プラン、輸出促進（国や北海道の施策、国土交通省農水産物輸出促進基盤整備事業に関するものなど）

・会員の活動や技術紹介

■漁村地域の担い手支援に係る事業

・マリンナレッジサークル(漁村勉強会)開催 漁村で開催（漁業者、研究者、民間企業、行政等の多様な人たちが集まり、地域の課題や様々な対策等についての意見交換）

■情報収集及び調査研究

・調査研究業務など

・事業の公募など

第4号議案

2020年度 NPO法人活動に係わる収支予算計画書(案)

会計期間：2020年4月1日～2021年3月31日

NPO法人マリンネットワーク

単位：円

科目	科目	前年度実績	R2年度予算	備考
1. 収入の部		1,065,507	959,010	
1. 会費収入		767,000	779,000	
	個人会員	267,000	279,000	正71人、賛22人(R1.3.31現在)
	法人会員	500,000	500,000	正46口、賛4口(R1.3.31現在)
2. 事業収入		298,500	160,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	0	10,000	ナレッジサークル参加費
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	10,000	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	0	10,000	
	情報収集及び調査研究	180,000	10,000	
	その他	118,500	120,000	講演会
3. 預貯金利子		7	10	
4. 寄付金等収		0	10,000	
5. 補助金等収		0	10,000	
6. 雑収入		0	0	
2. 支出の部		1,044,442	934,000	
1. 事業費		855,009	710,000	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	232,135	250,000	マリナレ
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	200,000	
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	0	10,000	
	④情報収集及び調査研究	99,464	50,000	
	⑤その他	523,410	200,000	講演会、総会は一部役員のみで実施
2. 一般管理費		189,433	224,000	
	給料手当	0	0	
	消耗品	51,492	50,000	
	通信費	20,149	20,000	
	外注費	0	20,000	
	新聞図書費	68,688	70,000	
	会議費	0	10,000	
	旅費交通費	46,820	50,000	
	租税公課	1,200	2,000	
	支払手数料	1,084	2,000	
	その他	0	0	
当期収支差額		21,065	25,010	
前期繰越金		1,304,659	1,325,724	
当期資産合計		1,325,724	1,350,734	

第5号議案

役員を選任(案)について

1. 提案理由

定款第14条及び23条に基づき、役員任期満了にあたり、監事1名が退任し、後任の監事1名の選任について、総会で決議する必要がある。

2. 提案内容

役員候補者は以下のとおりです。

監事候補者(1名)

小室裕一氏：株式会社シーイーサービス 会長